

スマート&ストロングカンパニーへの道

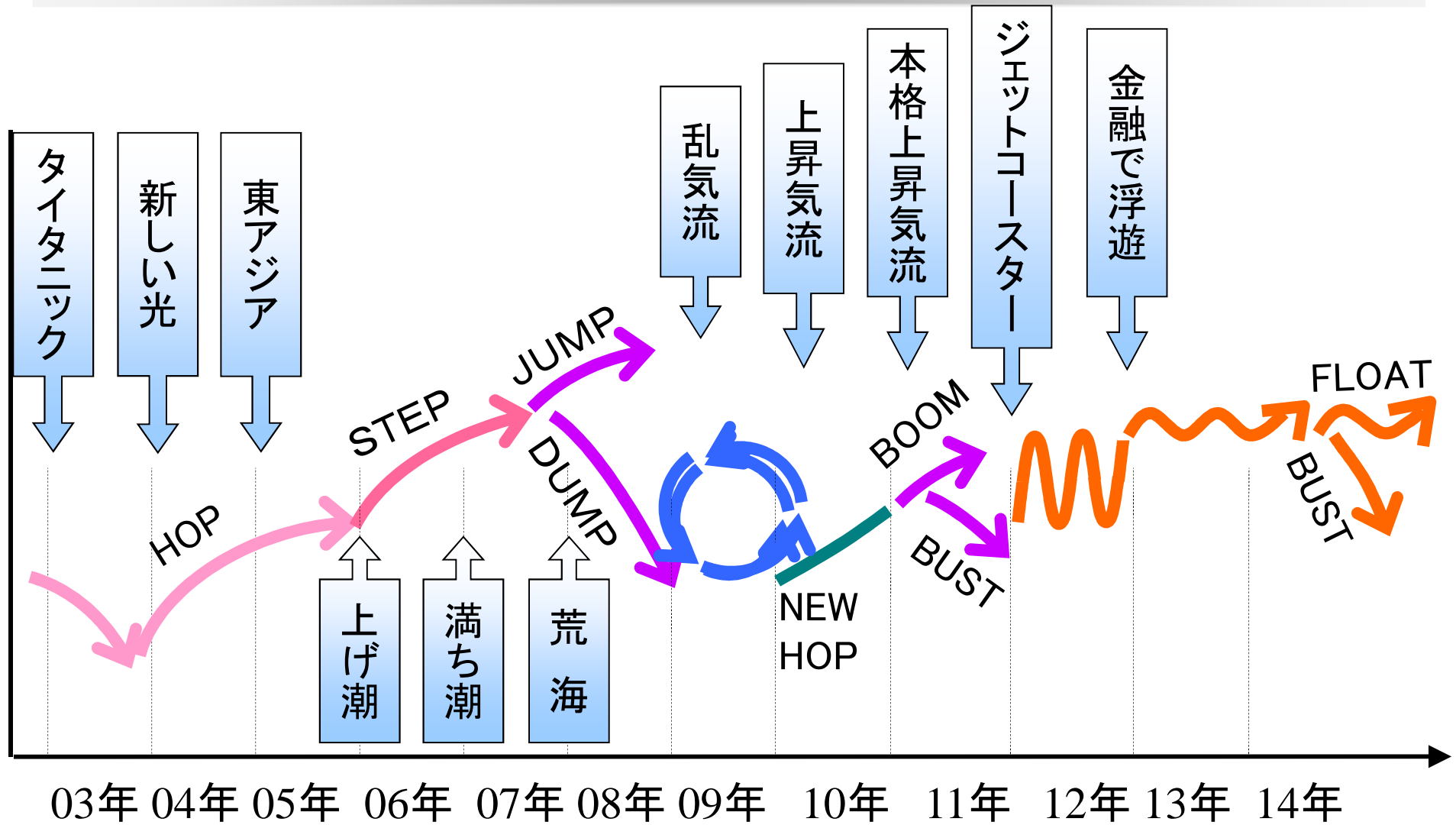
—正常化に踏み出す世界と迷いから抜け出す日本—

2013年10月17日

イノベーション・エンジン株式会社

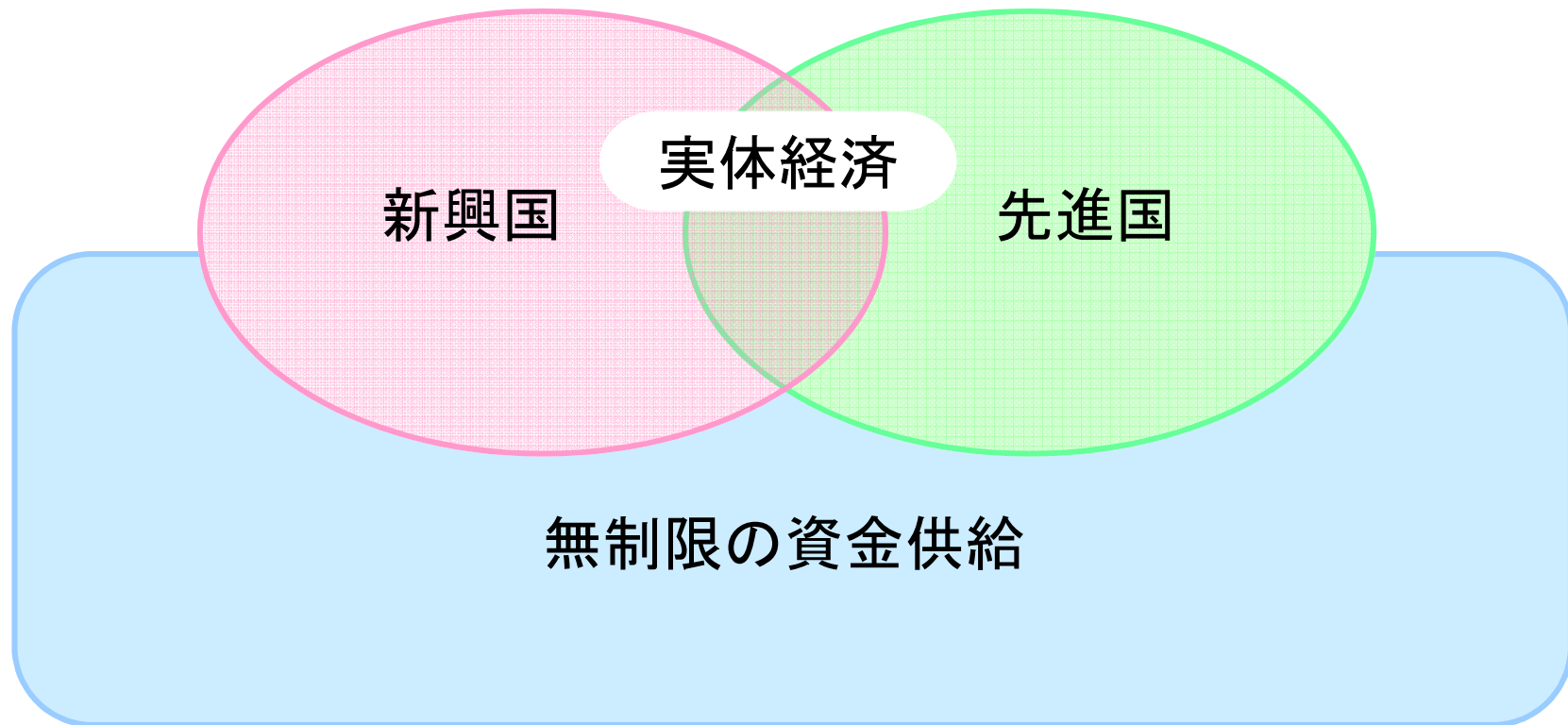
代表取締役社長 佐野 睦典

「金融で浮遊」経済



「金融で浮遊」経済の構図

シェール革命でエネルギー問題後退



何故「金融で浮遊」状態になったのか

- 民間の失敗を政府が全て肩代わり
- ポピュリズムのために政府が大盤振舞い
- 毎年の財政赤字穴埋めの国債発行



- リフレ政策のための無制限の資金供給
- ゼロ金利の無期限継続

<景気循環とは>

- 短期波動：在庫循環(キッチン循環) 3年
- 中期波動：設備投資循環(ジュグラー循環) 10年
- 長期波動：技術革新(コンドラチェフの波) 50年

<なぜ消えたのか>

- 在庫循環(3年)は、情報技術革新でなくなってきた
- 設備投資循環(10年)も、サービス経済化でなくなってきた
- 技術革新循環(50年)も、ハイパースピード化でなくなってきた

1780~1840 紡績機・蒸気機関

1840~1890 鉄道

1890~1940 自動車

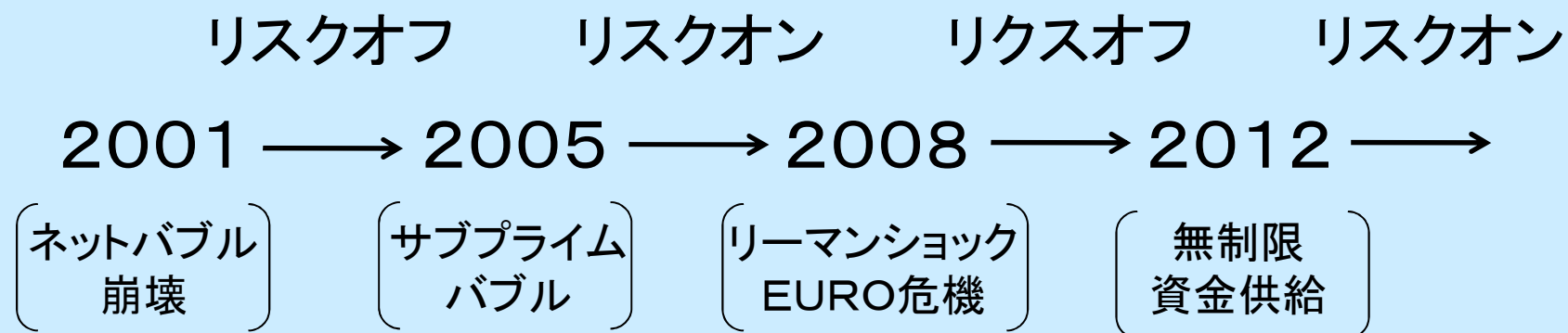
1950~2000 情報通信機器

2000~ ネットワーク

- 金融リスクによる景気循環

リスクオン：経済拡大

リスクオフ：経済萎縮





久し振りのリスクオンへ

- 新興国に活力が戻る
- 資産・投資市場に勢いが戻る
- 3つの技術革新が勢いを創る

3つの技術革新

- ① ネットワーク革命：4つのキーワード
 - ・ SNS
 - ・ ビッグデータ
 - ・ スマホ・タブレット
 - ・ リアルバーチャル

- ② ライフ革命：生命への挑戦
 - ・ IPS研究：究極の再生医療
 - ・ 最後の難病：ガンへの挑戦
 - ・ 生死 → 苦楽への価値転換

- ③ 環境エネルギー革命
 - ・ シェール革命
 - ・ HV → PHV・EV・FCV
 - ・ 低コスト、環境、リスクのバランス

- 実体経済は、金融経済の上で浮遊する
- 金融経済は、ハードランディングするまで回り続ける
- 実体経済は、新興国と先進国のせめぎ合いが続く
- 情報化によりハイパースピードで世界は動き続ける
- エネルギー問題は一段落する



スマート&ストロングカンパニーへの道

<スマートカンパニー>

何が起こっても速やかに対応できる機敏さ・用意周到さ

- 先読み力
- コンティンジェンシープラン
- 身軽な経営体質

<ストロングカンパニー>

- 不安な時代に確固たるメッセージとアクションをとり続ける
- 何が起こったとしても、人の生活は続き日本は復活をする、
という確信
- 何が起こったとしても、自社が世の中から必要だと思っ
てもらえるものは何か